

令和 8 年 9 月 8 日の豪雨時における下校・待機・引渡し対応についての検証

令和 8 年 9 月 8 日の豪雨時における本校の対応につきまして、当日の判断や対応を振り返るとともに、今後の安全確保に向けた改善の方向についてまとめましたので、周知させていただきます。

(1) 「学校内での待機」から「一斉引渡し」へ判断を変更したことについて

【当日の判断根拠と対応】

当日は、気象庁、ウェザーニュース、Yahoo!の 3 つの雨雲レーダーによる雨雲の動きや今後の予測を確認しました。また、15 時 40 分頃に職員が北門周辺を目視で確認したところ、越水の危険性が確認されたため、北門の利用を中止し、正門側の大通りのみを安全に通行できるルートと判断しました。

その後、職員が先導する形であっても通学路全体の安全を確保することが難しく、通常の通学団下校は危険であると判断したため、15 時 55 分に、児童の安全を最優先として「保護者への一斉引渡し（お迎え要請）」へ判断を変更しました。

学校内での待機から引渡しへ変更する際には、当時把握していた気象状況、学校周辺の状況、今後の天候の変化等を踏まえ、児童を安全に学校内で待機させ続けることと、保護者等による引取りに切り替えることの双方について検討し、判断しました。なお、今後は、判断時に確認すべき情報や、待機・引渡し・避難等を切り替える基準をより明確にし、職員間で共有できるよう整理してまいります。

(2) 保護者が学校へ向かうこと自体の安全性について

【当日の対応と今後の改善】

一斉引渡しの判断後、16 時 20 分頃、迎えに来られた保護者から、名鉄瀬戸線の踏切故障等により周辺の大通りが大渋滞している状況を把握しました。そのため、保護者の皆様が焦って危険な移動をされることがないように、「無理をせず、安全に来られる状況になってから来校してください」とのアナウンスを行いました。

また、徒歩で迎えに来られた方に対しても、急な天候変化の可能性を考慮し、一旦校内でお待ちいただくよう案内しました。

一方で、引渡しの判断を行う際には、学校周辺の状況を確認していたものの、保護者一人ひとりの居住地や移動経路まで把握した上で、来校の安全性を個別に評価することはできませんでした。今後は、引渡しを行う場合にも、学校周辺の道路・河川等の状況や公共交通機関の障害等、保護者が来校する際に想定される危険について、可能な範囲で情報を収集し、来校を急がないことや校内待機を選択できることを含め、より具体的に情報提供するよう改善してまいります。

(3) 学童クラブへの引渡しについて

【当日の対応と今後の連携】

当日は、放課後学童クラブ側と連絡を取り、クラブの職員の方が学校へ迎えに来る体制が整っていたため、引渡しを行いました。

しかし、その後の天神川の越水状況等を踏まえると、学校から学童クラブまでの移動経路についても、児童の安全確保の観点から慎重に判断する必要があったと認識しています。

今後は、気象状況や河川・道路等の危険状況だけでなく、学童クラブの所在地、学校から引渡し先までの移動経路、引渡し後の児童の移動の安全性についても確認し、必要に応じて学童クラブ側と事前に協議・情報共有した上で、引渡しの可否や方法を判断する共通の基準を整えてまいります。

(4) 代理引取り人の安全性について

【当日の課題と今後の改善】

緊急時に代理人による引取りが可能となるよう、あらかじめ引取り者を登録・準備していただくことには意義があります。一方で、荒天時には、代理引取り人を含む保護者等が学校まで移動し、児童を引き取った後に帰宅するまでの安全についても考慮する必要があります。

当日は、学校からご自宅等への移動の安全性について、最終的に保護者（代理人）の皆様の判断に委ねる部分がありました。今後は、お迎えに来られた保護者や代理人の方に対し、学校周辺の冠水・危険状況等を可能な限り具体的に情報提供し、危険が予想される場合には、無理な移動を避け、学校内で一時待機する選択も含めて適切に判断できるよう、情報共有と案内の仕組みを強化してまいります。

(5) アプリの「既読」と保護者の意思確認について

【当日の対応と今後の改善】

当日は、アプリ配信後、引取りに来られない状況について保護者から直接学校へご連絡をいただいた場合には、個別に対応することができました。一方、アプリの「既読」がつかない保護者については、児童の安全確認のため、職員が一人ひとり電話で状況確認を行いました。

アプリの「既読」は、通知を確認したことを把握するための情報であり、それだけをもって「引取りが可能である」「学校へ迎えに行くことができる」「児童を帰宅させることが安全である」といった保護者の意思や安全な移動可能性を確認したものとすることはできません。この点について、今後の緊急時の連絡方法では、通知の確認と引取り意思の確認を明確に区別して運用する必要があると考えています。

また、今回の確認作業に多くの職員を充てることとなり、本来最優先すべき引渡し現場への人員配置が十分にできず、対応の円滑さに課題が生じました。今後は、連絡確認の手順を整理するとともに、必要な人員を引渡し現場に重点的に配置できる体制を整えてまいります。

(6) 一斉引渡しによる交通混雑・路上駐車について

【今後の改善に向けた取組】

当日は、安全なタイミングでの分散来校や校内待機を呼びかけましたが、学校周辺では交通混雑や路上駐車が発生し、課題が残りました。学校周辺の交通安全を確保するためには、保護者の皆様への注意喚起に加え、学校側の引渡し方法や情報提供のあり方も含めて改善する必要があります。

今後は、前項で述べた連絡・受付体制の人員配置を適正化し、保護者の皆様へ迅速かつ具体的な情報提供を行うことで、来校が集中することによる混雑の緩和と、安全で円滑な引渡しの実現を図ってまいります。

また、運動場への車両誘導が安全上可能な場合には、運動場を活用した引渡しについても検討します。ただし、運動場の出入口が限られる場合には、出入りの際に危険が集中することも想定されるため、入口と出口の分離等を含め、安全に運用できる方法を検討します。この点については教育委員会にも報告し、安全な引渡し環境の整備について要望しています。

【今後の安全管理について】

今回の対応を受け、当日対応した職員からも聞き取りを行い、この事例をもとに「大雨による天神川越水時の対応マニュアル（職員用）」を作成しました。

このマニュアルについては、今回の事例だけですべての自然災害に対応できるものではないことを踏まえ、今後発生する可能性のある災害や、その時々地域の状況等を踏まえながら、必要に応じて見直し・更新を行ってまいります。

学校は、児童の生命と安全を守ることを最優先として、限られた情報の中でも適切な判断と対応ができるよう努めます。同時に、緊急時の安全確保には、ご家庭との確実な情報共有と連携も重要です。子の事案を今後の学校安全に生かし、学校と家庭が共通の目的のもとで、より安全な災害時対応を構築できるように努めてまいります。

令和 8 年 9 月 29 日

尾張旭市立旭小学校
校 長 岩 下 徹